

県道鴻巣川島線立体交差方式の決定のお知らせ

県ではこれまで鴻巣市箕田地内外における、県道鴻巣川島線とＪＲ高崎線との踏切の立体交差方式の検討を進めており、以下のとおり地元説明会を実施し、皆様方からご意見をいただきました（主な意見は裏面のとおり）。

いただいたご意見も踏まえた上で再度検討の結果、本事業の立体交差方式につきましては線路の上を橋りょうで道路が渡る「**オーバースタック方式**」で実施することと決定しましたのでお知らせします。

日付	時間	会場	参加者数
2月28日(水)	15:00～20:00	箕田公民館(講座室)	33名
3月 2日(土)	13:00～17:00	箕田公民館(視聴覚室)	13名

合計46名

【位置図】



【開催状況】



【完成予想図】



《問い合わせ先》北本県土整備事務所
道路施設担当 高田、中島
電話 048-598-8278

県道鴻巣川島線立体交差事業説明会の主な質問とその回答

Q 1	今後のスケジュールは。工事に着手するのはいつか。
A 1	<p>今回の説明会で皆様から頂戴したご意見を踏まえた上で立体交差構造の方針を決定し詳細な設計を実施した後、工事に関する説明会をさせていただきます工事に着手する予定です。</p> <p>オーバースタイルの場合だと最短で調査設計に3年、工事に5年程度を要することが見込まれます。</p> <p>なお全面通行止での工事となり迂回路が必要となることから、現在県では上尾道路への迂回を考えておりますが、現状ではこの調整も整っていないため工事着手までの具体的なスケジュールは未定です。</p>
Q 2	オーバースタイルだと騒音・振動が出るのではないかと。
A 2	<p>騒音・振動等の周辺環境への影響に関してはアンダーパスの方が優れていますが、他の項目も含め総合的に判断すると立体交差形状は県としてはオーバースタイルの方が望ましいとの結論に今回至りました。</p> <p>オーバースタイルでは橋の継ぎ目から騒音・振動が発生する可能性があるため、現在の計画ではこの継ぎ目が最小の2箇所となる計画としています。</p> <p>また、今後の詳細な設計の中でもなるべく騒音・振動を低減できるような構造を検討します。</p>
Q 3	オーバースタイルだと道路の一番低い箇所に雨水が溜まるがその対策は。
A 3	今後の設計の中で排水対策についても検討していきます
Q 4	歩行者や自転車は上り下りが大変になるので、歩行者、自転車用の踏切を残してもらえないか。
A 4	今回の事業は踏切を除却して踏切事故を無くすことも目的の一つであるため、立体交差設置後に踏切を残すことは出来ません。
Q 5	踏切南側で小学生が多数利用している通学路が分断されてしまう。
A 5	<p>現在の設計では宮前交差点まで迂回して横断していただく形となっています。</p> <p>確かにかなり遠回りとなってしまいうため、通学路横断箇所を将来も同位置で歩行者が横断できるような構造にすることについて、鴻巣市とも相談の上、今後の設計の中で検討していきます。</p>

事業の進め方

比較検討



説明会



方針決定

現在

※今後のスケジュールは未定です。



設計



工事説明会



工事